

# みとよの観光って？

特集 みとよの観光を考える

香川県の観光と言えば「さぬきうどん」  
 “それだけじゃない香川県”で、  
 ほかに思い浮かぶのは「こんぴらさん」や「栗林公園」などなど。  
 市内にも多くの観光資源がありますが、三豊市の観光となると、  
 なかなか思い浮かばないという人も・・・。  
 あなたは、三豊市の観光と聞かれたら、何を思い浮かべますか。

## 生かされていない 観光資源

風景、自然、文化に富んだ観光資源が市内には数多くあります。それは、瀬戸内海をはじめとした心癒やされる景色や、お遍路接待に培われた心温まる人たちの地元で取れる豊かな食べ物です。

しかし、その資源を十分に生かされていないのではないのでしょうか。

## 少ない集客力

香川県の観光名所の集客数No.1は、「金刀比羅宮」の年間約325万人。続いて「栗林公園」の約59万人。第3位は「屋島」の約54万人です。

## 観光振興を探る 討論会開く

市内では、財田町の「たからだの里物産館」が約31万人の県内外からの買い物客でにぎわっています。「不動の滝カントリーパーク」には約6万人、「朝日山森林公園」に約5万人、「紫雲山」に約3万人と、県内の観光名所とは比較にならない程少ない集客数となっています。

合併して6年が過ぎましたが、市の観光はどうあるべきか。5月21日、ANA総合研究所の坂下正憲さんを講師に迎え、「観光振興シンポジウム」が開催されました。後半では、市長がコーディネーターを務め、三豊市観光協会会長をはじめ関係者によるパネルディスカッションが行われ、「観光地みとよの魅力づくり」について活発な意見交換が行われました。  
 次のページでは、その一部を紹介します。



「見る観光」から  
「体験する観光」へ



ANA 総合研究所 主席研究員  
摂南大学 客員教授  
坂下 正憲さん

を提供してはどうでしょう。

地域の魅力を  
再発見しよう

観光まちづくりには、地域の協力と理解、関心が必要です。

地域の自然や文化、産業、特産品などを再発見すると、自信になり、誇りになり、地域全体の活性化につながります。

一度に多くの取り組みをするよりも、ターゲットとコンセプトをよく話し合い、納得・理解して、みんなで動くことが大切です。

観光の定義は「見る・食べる・遊ぶ」から「見る・食

ふれあう（交わる）・学ぶ」に変わってきています。

自然活動や創作活動をとおして、地域の自然・文化にふれあう「体験観光」を求める観光客が増えていきます。

体験観光は今の自然を活用するので、費用と自然環境への負荷が少ないことが利点としてあげられます。

市内には数多くの自然や文化がありますので、林間・臨海学校のような体験観光



連携を密に

三豊市観光協会  
会長 真鍋 雅彦さん

知名度向上を図るためのプロジェクトを市では行っていますよね。知名度アップ、経済効果、定住など三豊市の観光の目指すべきところは何かを、まずは考える必要があるのではないかと思います。

体験観光の場合、特にガイドが必要となります。ガイドがいることで観光の理解度は大きく違うと感じます。有料化を進めることによって、雇用拡大にもつながるといった考えもあると思います。

また、集客を増やそうとしても、受け入れ人数にも限界があるかと思うので、関係団体と連携を密にしていくことが大切ではないでしょうか。



思いを一本化

市長  
横山 忠始

観光は産業振興や定住などさまざまな総合政策と大いに結びつくものです。観光の重要性を更に高く位置づけていますが、三豊市はまだまだ知名度が低く、今からが本番という気がします。三豊市の観光というものに向かって、地域全体の思いが一本化していけば、大きな力になるのではないかと思います。

(坂下) シンポジウムを開催するなど、多くの皆さんが集まり、三豊市の観光をゼロから考えようとする、これは大きな強みです。話し合う中で、次へのヒントが見つかるはずですよ。



観光地みとよの魅力づくり

参加者からの声

7町を巡るようなサイクリングイベントはどうか。各地の魅力を織り交ぜていけば、いいものができるのではないかと思います。

近くの琴平町などと広域的な観光について議論することも、大切ではないかと感じます。

荘内半島を車でよく回るんですが、景色が見える所が少ないんですね。海が見えるより木が見えるんです。見える所は車が止められないし・・・どうにかならないですか。

マラソン大会を開催してはどうでしょう。マラソンはブームなんで、多くの人に参加するし、地域の人との交流も出てきます。

浦島太郎伝説をもう一度詳しく調べてほしい。

体験観光を実施する場合に、必要なのがガイドです。専門的な部分も含め、ガイドを集め、育成するような支援を作ってほしいです。それによって、滞在型観光につながるんじゃないですかね。

観光を目的とした会社を設立してみてもどうですか。



経済効果を  
高める

まちあるき事業実行委員会  
委員長 近藤美代子さん

5年目を迎えた「まちあるき」。今では市外だけでなく県外からも参加する人がいて、リピーターも増えています。ガイド一人ひとりに、自分たちが知っている地域のことを参加者に伝えようという姿勢があって、「あれもしようか、これもしようか」とすごく勉強しています。

もっと集客力や経済効果を高めるにはどうすればいいでしょうか。

(坂下) まちあるきガイドを有料化するなど新しい形を構築していくことで、更なる向上を図ることができるのではないのでしょうか。



情報発信が鍵

県商工会青年部連合会  
会長 田中 達也さん

観光について詳しくないんですが、荘内半島の夕日がきれいとか、海産物おいしいとか魅力があることは知っています。しかし三豊が観光地であると考えたことは正直ないですね。

今はフェイスブックなどで体験したことなんかを多くの人たちと情報共有できる時代になっています。その情報を拡散する鍵となるのは地元に住んでいるわれわれであると思っています。

われわれがこの地を観光地であると認識し、この魅力を押しつけるくらいの気持ちにならないといけないと思います。

# みとよの素材を輝かせるために

インタビュー

## 買う



株式会社たからだの里  
代表取締役副社長  
岡崎 育夫さん

### コンセプトは地元の『採れたて』

物産館に買い物に来る人の半数以上は市外からです。野菜や果物、加工品など楽しみながら買い物ができるよう幅広い品ぞろえをしています。

170人ほどの農家の人たちに協力してもらい、採れたての新鮮な物を出すことができていること、温泉施設や戸川ダムが隣接していることの相乗効果が集客につながっていると思います。

新鮮食材のほかに年間を通じて好評なのが製造直売の手作りアイスクリーム。季節限定商品を職員みんなで考案し、いつも12種類ほどを販売しています。厳しい経済状況にありますが、何もせずにじっとしているんじゃない、維持する努力と次への挑戦を続けていきたいです。



開店前に野菜を並べる農家の人たち

## 体験する



田井民芸  
5代目 田井 艶子さん  
香川県伝統工芸士

### 伝統工芸を親しみやすく

5月の最盛期には、一つひとつ手作業で製造した数百もの「張子虎」を出荷しています。その中で、地元文化を知ってほしいとの思いから、三野津中学校で絵付け体験授業をするようになり、今では作業所を中心に広く実施しています。伝統工芸品である「張子虎」が忘れ去られることなく、後世に伝えられるよう、次世代を担う子どもたちや多くの人たちに、これからも絵付け体験の活動を続けていきます。



絵付けした虎には、人のよさが表れるんですよ。体験者が完成した作品を見て喜ぶ顔を見るのが、ほんとうにうれしいですね。

## 見る

### 紫雲出山からの眺め まさに“瀬戸内一の美”



紫雲出山遺跡館  
管理人 前川 末子さん

湖のように青く静かな海、そこに浮かぶ変化に富んだ島々。四季折々の花が山を彩り、みなさんの目を楽しませてくれます。

遺跡館に訪れたお客さんが「ガラス越しに見る景色は、美術館の風景画を見るようやわ」と喜んでくれるのがうれしいんです。

これからあじさいが最高の見ごろをむかえます。約2,000株ある青紫色のあじさいは、背も高く、趣がありますよ。あじさいゼリーも販売しますので、ぜひご賞味ください。

## 泊まる



三豊市ホテル旅館民宿  
同業組合  
理事長 陶山 正人さん

### 観光資源に筋書きを

旅館業全体のサービス向上や、大きな団体を分宿して受け入れ可能にすることを目的に、三豊市ホテル旅館民宿同業組合を5月9日に設立しました。

今まで収容人数の点で宿泊を断ることもありましたが、設立によりターゲットの幅を広げることができるようになります。

地域の特徴を生かしたプランを作り、観光資源に筋書きをもたせることで、“ゆったり感”や“のんびり感”を味わえる滞在型観光に結びつけることができると考えています。

## 連携

### 観光の 窓口的役割に



三豊市観光協会  
事務局長 成行 公雄さん

設立して4年目を迎え、最初にしたことは各地域が“お互いを知る”ということ。例えば、紫雲出山から見る瀬戸内の多島美は誇れるものですし、採れたての食材をすぐに食べられるというのは都会では味わえない魅力ですね。まだ見過ごしている観光資源の発掘や、すばらしい三豊の魅力をPRするなど、観光の窓口的役割が観光協会だと思っています。

これから行うことは2つ。一つは、各種団体との連携を密にし、各イベント内容をより充実させること。もうひとつは、近隣の市町との連携を取り、着地型観光の充実を図ることです。

新たな観点からの三豊をとらえて発信しながら、“経済効果がより発揮できる観光事業”を目指していきます。

▶問い合わせ 産業政策課 ☎ 73-3013  
三豊市観光協会 ☎ 56-9121

安くておいしい讃岐うどんを求めて  
遠方から飛行機で香川に来て、  
レンタカーでうどん店をはしごする人もいます。  
口コミサイトのうどん部門で上位にランキングされている店が  
三豊市内にあります。これも『三豊を代表する観光資源』  
市内には、まだまだ数多くの観光資源が存在するなかで、  
観光によって地域が潤うために、  
三豊に埋もれている観光資源を、オンラインワンの観光原石を  
あなたの手で光輝かせてみませんか。

